

臨床のきれはし

SHEET24

浅田 英輔

Professional Identity

少し前だが、定例となっている「家族支援研究会」に参加してきた。青森県弘前市において2001年くらいから続いている、団先生にきてもらうワークショップだ。かなり最初の方、20代のころから参加している。そこで話題になったことを考えてみた。

私は見相を離れて、いわゆる「心理の仕事」はしていない。県庁で、「行政職の枠」で事業をやったり事務をこなしたりしている。

※公務員の多くは一般行政として採用されているが、そのほかに心理や、医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、看護師、保健師等々多くの専門職がいる。私は心理の専門職採用。

今の仕事の前任者は行政職だし、後任となるのも少なくとも心理職ではないだろう。心理の人だからできる仕事、というものでもないのだ。でも、私は心理職であると思う。臨床心理士だし公認心理師だ(2つの資格にこだわりはないが、臨床心理士のほうの響きが好き)。仕事で主催したり参加したりする研修会には、ケアマネとか社会福祉士とか保健師とかがよく参加している。そういう時も職種欄には「臨床心理士」と書く。今の仕事に資格は必要ないが、モノを見る視点として心理の学びはとても役に立っていると思う。それほ

ど遠くない未来に定年を迎えたりして県職員をやめるときが来るが、それでも私は「心理職である」と思うことだろう。「職」とは言わないかもね？心理屋さんです、とかならうか。やめたあとに心理の仕事をするかわからないが、心理の力を発揮する場面のない仕事であっても同じように思うだろう。臨床心理士の更新をやめて資格を失ったとしても、外で名乗りはしなくとも臨床心理士だと思うだろう。臨床でも公認でもよいが、「自分は心理職である」というのが職業的アイデンティティであるように思う。

これは、専門職、それも更新がいらぬ(公認心理師はいらぬ)資格を持っているからだろうか。たぶん、看護師や保育士の人なんかは、仕事をやめたあとも「私は看護師(保育士)である」と思っているかもしれない。もしかしたら、資格は取ったけどその仕事をしていない人は違うのかもしれない。勝手な想像だが、教員免許を持っている人は、仕事を辞めると「私は教師だ」とは言わないのかもしれない。言い方は「教員免許を持っている」となるのかもしれない。私も教員免許を持っていた(更新制度が導入されたときに失効しているはず?)が、自分のことを教員だと思ったことはない。そう考えると、「更新不要な資格を持っていて、その仕事のある程度したことがある人」は職業的アイデンティティを持ちやすいのかもしれない。

では、資格のない人は職業的なアイデンティティを持っていないのか？

離職や転職、非正規雇用が増えているとはいえ、日本は基本的に終身雇用だ。20年、30年と同じ会社に勤めるパターンが多い。大きいところであれば異動があるのが普通で、同じ部署にずっといるということは非常に稀だ。青森でいうと県庁はかなりの大企業であり、当然異動がある。健康福祉部の人には部内で異動することが多いが、担当する仕事はかなり違うものである。20年、30年といろいろな仕事を経験し、部長とか課長になる人もいれば、そうでもない人もいる。私の周りの同年代の人もほぼ全員が20年以上県庁に勤めている人たちだ。

そういう人たちは、仕事を辞めると「タダの人」になるのだろうか。名前がつけにくいのは確かだし、「行政専門職です」とはあんまり言わない。でも、「行政の仕事をしてきた経験を持った人だ」とは言えるだろう。実はこれ、外にいくと結構大事な能力で、事務処理能力、資料を作る力、事業を企画する力などは結構すごい。いい気になる必要はないけど、「そういうことができる自分」というのは誇っていいと思う。

今回の能登半島の震災の対応もそうだが、災害支援となるとDMATの医師や薬剤師など、直接対応する専門職が目立つことが多い。でも、どういったチームにもロジ（ロジスティクス）と呼ばれる事務調整役が含まれていることはあまり知られていない。知られていても、「記録係」とか「運転手」と思われていることも多く役割は地味といえるが、とても大事なものである。チームによって多少異なるが、各種調整や記録、他のチームとの調整交渉などを担うことが多い。青森県からも保健師チームが派遣されており、チーム編成の基本は保健師×2＋ロジ×1で、派遣元の県本部と連絡を取り合い、全体を把握しているのはロジであることも多い。逆に、ロジがぱっとしないとチームはなかなかうまく動かない。タスクを整理し、優先順位をつけ、

次々と処理していくという技は専門的な技術といえるだろう。「災害対策本部」の写真を見たことがあると思う。様々な色のピブスを付けた人がたくさんいるやつ。あれも全部ロジ。行政＋専門職が、支援のためのモノやヒトを割り振りしたりしているところである。

そういった、自分が積み重ねてきた仕事について、意識する機会はあるだろうか。公務員に限らず、一般事務や営業と呼ばれる仕事をしている人たちは、そういう専門性を意識する場面が少ないのかもしれない。

いまそういう一般行政の仕事をしていて思うのだが、われわれは今している仕事をもっと分類するといい。

「今やっているのは研修企画、運営であって、講師を確保するのに交渉をしているところだ。」とか。

「参加者を募集するのに、興味のありそうな分野の人たちに案内を送るという事務だ。」とか。

「交付金を取りまとめるのに、各事業をチェックして数字をそろえて確認して提出するとりまとめだ」とか。そういうふうを考えていくと、「私はこれまで、講師交渉や参加者の取りまとめといった研修主催事務を行ってきました」とか「数字のチェックをしたうえで一枚に取りまとめるという経験はかなり積みました」とか言えるのではないだろうか。そしてそれは結構大事なスキルだし、重宝されるのではないかなと思う。

心理職だって同じで、「認知行動療法を専門にやっています」などと言えるのはとても望ましいが、得意な技法だけを使って仕事ができる人は多くないように思う。どういう仕事を積み重ねてきたかということを少し言葉にしてみることは大事である。

そう考えると、私はずっと「支援者支援」をやっているなあと思う。得意です！たぶん！

「自分は大したことしてこなかった」と謙遜するのもいいが、やってきたことをキチンと分類して、何をやってきたのかをちょっとだけ明確にするのって、自分を確かめることに大事なのではないかなーと思ったりもする。